

正門の銀杏

今（令和6年12月10日）、本校のシンボルツリーとも言うべき正門傍の銀杏の大木が大変きれいに色づいています。

この銀杏について、『熊中熊高 百二十周年誌』に記載があったので紹介します。

この銀杏は、明治41年（1908年）3月、当時の卒業生の方々（熊中八回生）が卒業記念樹として植えられたものだそうです。当時銀杏の苗木がなかなか見つからず、ちょうどよい大きさの幼樹をあるお寺の境内で見つけ、それを譲り受けた、というエピソードもあるようです。



なぜ銀杏の木かというと、本校の校章が三つ葉銀杏だからです。そして、校章として銀杏が選ばれたのは、銀杏が「熊本県（肥後）の伝統的固有の美風を代表」するものだからと、本校初代校長野田寛先生が言われています。（熊本城も別名「銀杏城」と言いますよね。）

さらに、この正門の銀杏には名前が付けられているのです。その名前は「不知火」。

名前までついているということは、この木は多くの熊中生、熊高生に愛されてきたということでしょう。

120年近く本校を見守ってきてくれた銀杏。

これからも、この樹を大切にしていきたいと思います。